

あの企業は、今どうしてる？

過去に紹介した、あの企業は今…

## センター活用事例 再訪その3



「BIC Akita」は創刊以来、約1,700の県内事業所を取材・掲載してきた。

1月号から、過去に「センター活用事例」の取材にご協力頂いた事業所に再びお邪魔し、現在の取組状況などをレポート。今号では、女性経営者5名の「今」を聞いた。

### センター活用事例 前回掲載号



【手作り工房 心軸】  
2012年7月号 掲載



【KITA DESIGN】  
2012年9月号 掲載



【カクトのみや】  
2013年11月号 掲載



【有限会社 藤倉食品】  
2015年7月号 掲載



【旬菜みそ茶屋 くらを】  
2016年5月号 掲載

### 手作り工房 心軸

## 大好評のファッションショー

「道の駅かみおか」近くに、着物のリメイクを手がける「手作り工房 心軸」がオープンしたのは2012年。オーナーの黒川恵美子さんが、夫が経営する電子部品メーカーの新規事業として立ち上げた。昔から着物が好きで、和裁・洋裁に興味があったという店の経営は初めて。試行錯誤しながら商品数や売り場を少しずつ充実させていった。取扱いアイテムが増えて手狭になったことから、現在は自宅敷地内に移転。工場を改装した広い売り場に、振袖や留袖で作ったスーツ、帯で作ったバッグ、大島紬や久留米餅の洋服など、数々のリメイク作品が並ぶ。13年からは、リメイクを依頼したお客様をモデルにした「着物リメイクファッションショー」を毎秋開催。「毎回大好評で、モデルを務めて感激して涙する人も。おしゃれに着飾り、人前に出ることによって積極的になったり、性格が明るくなったり。そんな

「お客様と一緒に、楽しく、穏やかに店を続けていきたいですね」と黒川さん。



広々とした店内。かつて工場だった建物を黒川さんのご主人が改装。商品が豊富に並ぶ。



2013年から続けているファッションショー。来場者約850人を数えたことも。

喜ぶ顔を見るとやめられなくて」。他にも着物やドレスのレンタルや、手芸教室、介護施設でのファッションショーの開催など、幅広い事業を展開。たくさんの人の心を豊かにつむいでいる。

手作り工房 心軸  
<http://kokoro-tumugi.com>

大仙市北楯岡字船戸558 / Tel.0187-72-2610

## KITA DESIGN

## ポータルサイト運営を事業化

2011年に勤務していたデザイン会社から独立し「KITA DESIGN」を立ち上げた北林由貴子さん。創業時には秋田県庁第2庁舎の創業支援室に入居し、それが大きな支えになったと言う。最長入居期限の3年を経て2014年に現在地に移転、常勤スタッフも採用し事業は順調に推移している。

仕事量、売り上げとも安定してきたことから、永年の夢であった「秋田で働く女性のためのプロジェクト」としてポータルサイトの立ち上げの準備に取り組んできた。

「私自身が子育てをしながら仕事をしていますが、こういう立場の人が欲する情報が不足していることを痛感していました」と北林さんは言う。それなら働くお母さんやこれから結婚する女性が欲する情報を自分から発信していこう、と思い立ったのがきっかけだ。県のサービス産業ビジネス展開支援事業の採択を受け、本

いずれは常勤スタッフを増やし、自ら外に出る機会を増やしたいという北林さん。



現在は北林さんを含めて2名のスタッフで日々の業務を担っている。



3月からスタートした自社企画のポータルサイト「a.woman」。

年3月1日にサイトをスタートさせる。県北から県南まで地元の女性ライター約10名が口コミから収集した、等身大、読者目線の情報を提供していく予定だ。

【秋田の女性のWok&Life a.woman】 <http://awoman.jp>

KITA DESIGN  
<http://kita-design.net/>

秋田市保戸野千代田町16-20 fellows BL 2F / Tel.018-893-5650

## カクトとみや

## 「まちの駅」をきっかけに顧客開拓も

湯沢市大町の陶器店「カクトとみや」は創業115年の老舗。郊外の大店におかれて中心街が空洞化する中、何とか打破しようと当センターの専門家派遣事業を利用するなど経営改善に努めてきた。そして、集客策として浮上したのが、店内の一角を「まちの駅」\*として利用すること。こうして「まちの駅 カクトとみや」は、2013年7月にオープン。その後、地元の人たちの憩いの場として親しまれ、教室や書道展・絵画展など、様々な催し物や、小学生の課外学習の見学に利用されている。

「犬っこまつり」が行われた2月11日には、恒例の「まちの駅 邦楽コンサート」が開かれ、生田流正派邦楽会わかば会の箏と湯沢混声合唱団YMCの演奏が披露された。「毎年70人以上のお客様が訪れる人気のコンサート。催事をきっかけに近隣市町村や県外から訪れるお客様も。まちの駅は、新規顧客の開拓に一

「地域の方に気軽に利用していただいています」と笑顔で話す富谷さん。



陶器、漆器、鍋、キッチングッズ、食品、エプロンなど、多彩な商品を揃えるカクトとみやの店内。



「犬っこまつり」期間中のコンサートで、箏と合唱の音色が響きわたった。

役買っている」とカクトとみやの代表の富谷久美子さんは笑顔を見せる。

\*まちの駅…公共施設や個人商店などが既存空間を利用して、地域情報を提供したり交流の促進に供される場で、任意団体「まちの駅連絡協議会」に申請し、認定審査を経て同協会への入会が認められる。

カクトとみや

湯沢市大町2丁目2-2 / Tel.0183-73-6104 / 営業時間 9:30~18:00



## 有限会社 藤倉食品

## 製造元自ら、出張・対面販売

豆腐、豆腐カステラ、えご、こんにゃくなどを製造している「藤倉食品」。創業80年の老舗ながら後継者がおらず、当センターのマッチングシステムを利用し、電気工事会社の役員だった石井友子さんが事業承継。以前から食材として豆腐に魅力を感じていた石井さんは、2011年の社長就任以来、数々の新商品を開発。企業応援ファンドの採択を受けて開発した高級豆腐カステラ「ふくら」や、豆腐製のオリジナルスイーツは昨年、羽田空港の全日空ラウンジで秋田県をフューチャーした期間限定料理に使われるなど注目を集めた。

また、昨年10月から、横手市の道の駅十文字構内に出店。社長自ら売り場に立ち、焼きたての豆腐カステラのほか、味付きがんも、里芋入り「いものこんにゃく」などを販売している。石井社長は「お客様と

柔軟な発想とアイデアで、商品開発や販売促進に挑戦している石井。



自慢の商品を並べて販売。ガスコンロで銅鍋を熱し豆腐カステラを温めて販売も。夏場は焼きたてを提供。



お客様との会話を大切にしている。何気ないやりとりから顧客のニーズを探る。

直に接することで、反応を体感できる。さらに、企業からの引き合いのきっかけにも。これからも対面販売を続け、商品開発に役立てたい」と、ますます意欲的だ。

## 有限会社 藤倉食品

<http://www.akita-fujikura.com/>

横手市横手町字大関越88 / Tel.0182-32-0792 / Fax.0182-32-0723

## 旬菜みそ茶屋 くらを

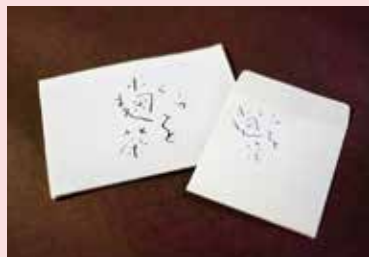
## 「米麴茶」の商品化、進行中

県南地域に受け継がれる発酵食の魅力を広めようと、米麴や味噌、漬物、旬の食材を使った料理や喫茶メニューを提供している「旬菜みそ茶屋 くらを」。女将の鈴木百合子さんは「麴は体に優しい食品。もっと麴に興味をもってもらい、毎日手軽に味わってほしい」との思いから、オリジナルの「米麴茶」を開発した。

昨年末から本格的に商品化に着手。当センターにデザイナーのマッチング・コーディネートを相談するなどして、秋田市の「casane tsumugu」代表、田宮慎氏にプロデュースを依頼。

オフィスで飲んだり、気軽にプレゼントしやすいように考えたティーバッグや、ドイツ在住のデザイナーと検討を重ねた、こだわりの茶筒付きの商品を制作した。パッケージやパンフレットも完成した現在は、販売先を検討中。

茶筒付きの「米麴茶の缶詰め」を手にする鈴木さん。業者の職人が1つ1つ手作りしたこだわりの一品。



10gのティーバッグがポチ袋に入った商品。5個を詰め合わせにして販売。



香ばしさと自然な甘み特徴の米麴茶。ノンカフェインで子供も安心して飲める。

鈴木さんは「東京で米麴茶を飲んでもらったところ、若い女性に大好評。可能性を実感した。流行り廃りに流されない息の長い商品にしたい」と意気込みを語る。

## 旬菜みそ茶屋 くらを

<http://kurawo3710.wix.com/kurawo3710>

横手市増田町増田字中町64 / Tel.0182-45-3710 / 定休日 水曜日 ※営業時間、定休日は変更あり  
営業時間 10:00-16:00 [ランチタイム]11:30-14:30 [朝ごはん(予約制)] 8:00-10:00